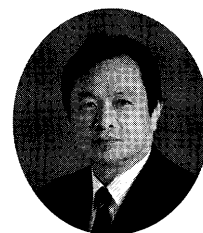


会長就任のご挨拶 —新たなステージ：学際研究フロンティアと 実感の伴う AI を目指して—



山口 高平

(慶應義塾大学理工学部)

JSAI は、創設以来四半世紀が過ぎ、来年 4 月には、社団法人から一般社団法人に移行する予定で、新たなステージに入ります。このような変革期に会長に就任するのは、身の引き締まる思いではありますが、JSAI および人工知能研究について、最近、感じていることを述べることにより、ご挨拶に代えさせていただければと思います。

まず、JSAI は、ほかの電子情報系学会と比較して、学際色の強さが大きな特色になっていると思います。本特色は、他国の AI コンファレンス (IJCAI, AAI, ECAI, PRICAI など) と比較しても、同様に成り立っています。例えば、全国大会のセッション名を眺めてみますと、一般セッションと同規模で OS (オーガナイズドセッション) が企画されています。今年の山口 (人名ではなく地名です) での第 26 回全国大会の OS では、SAT, ビッグデータ, Linked Data とオントロジーのような重要な AI テクニカルセッションが組織されているとともに、オノマトペ, コトのデザイン, 仕掛学というように、これって AI? というような学際的セッションも組織されています。この学際性が、各自の AI 研究を違った角度から眺めてみる機会を与え、そこから新たな交流、新たな研究テーマが生まれ出され、人工知能研究に大きな広がりをもたらしています。このように、JSAI は学際研究のフロンティアになっていくことが、一つの方向性かと感じています。

また、最近では、ちょっとした AI ブームになっています。掃除、ひげそり、節電などの分野で制御系 AI が活躍し、日本のゲーム分野では、将棋 AI が元名人に勝利し、囲碁 AI がハンデ戦ながらも元名人に勝利しました。昨年、米国のジュパディという人気長寿クイズ番組では、クイズ AI 「ワトソン」が人間のグランドチャンピオンに挑戦し、勝利をおさめました。日本におきましても、人工頭脳プロジェクト：ロボットは東大に入れるか (次号 Vol. 27, No. 5 に特集が組まれています)、という入試 AI プロジェクトが開始されました。街角では、スマートフォンのアプリ、おしゃべりコンシェルジュが人気です。

一方、日本の産業については、閉塞感に関する報道が目立ちます。「自社の強みを伸ばして、改良商品を開発していく「強み伝い」の経営を続けた結果、変化の激しい世の中から置き去りにされてしまった」とか、「従来型 IT では、もはやイノベーションは期待できず、新たな顧客を創造する手段になり得ない」というような悲観的な論調が目立ちます。

1980 年代、ガジェットにしか過ぎなかったパソコンがメインフレームを圧巻し始め、1990 年代、回線交換から見れば通信品質を保証しない、ガジェット同様のパケット通信 (インターネット) が社会資本になり始め、2000 年代、漏れや SEO スпамでガジェット扱いだっ全文検索エンジンが検索連動広告で広告メディアのコアテクノロジーに育ってきました。

ICT の世界では、最初はおもちゃ扱いだっガジェットから破壊的イノベーションが生まれ出されてきています。イノベーション=インベンション (新しい技術の考案)+インサイト (その技術がどのように使われると有用になるかを深く洞察) と説かれることがありますが、インベンションだけではだめで、実感と洞察のあるインサイトとセットで考えよということなのだと思います。AI 要素技術を連携させ、おもしろくて実感のある AI ガジェットをつくり出しましょう。その試みが、この日本の閉塞感を打破することにつながっていくかもしれません。

最後になりましたが、JSAI では、全国大会、20 近くある研究会、セミナー、国際シンポジウムなどの情報をわかりやすく発信していく所存ですので、会員の皆様、奮ってご参加いただきたく思います。JSAI を交流の場としてご利用下さい。そのような交流から、新しい AI が生まれてくるものと思っています。皆様あつての学会です。今後とも、JSAI の活動にご協力いただければ幸いです。